



**園芸
ポイント**

**ネギ作付け前の
圃場準備と定植について**



秋田地区営農センター 係長 **澤田石 仁**

近年、梅雨などに局所的な集中豪雨が多く発生し、排水対策が必要不可欠となっています。定植前はしっかりと排水対策を行うことで、軟腐病などの腐敗症状や湿害によるネギの消失をなくするための重要な時期となります。

圃場準備

- 圃場は排水性がよく、軟白部を確保できるように作土層が深いところを選定してください。水田転作などの場合は額縁明渠や弾丸暗渠などを施工し、排水が十分に図られるように改良しましょう。
- 土壌改良資材は、土壌診断に基づいて施用量を加減しましょう。pH6~6.5が目安となります。
- チェーンポットや機械移植では、砕土率が植え付け精度や能率、その後の生育に影響します。適度な土壌水分のときに耕起をていねいに行い、砕土率をよくしましょう。

●土壌改良資材の施用例

資材名	投入量
堆肥	2,000~3,000kg/10a
苦土タンカル(粒)	100kg/10a
ストロングバランス	100kg/10a

※初作地の例となります。土壌分析結果などをもとに、投入量を加減してください。

施肥

- 植え溝一発施肥を基本とします。定植後5か月以内に収穫できない場合は、追肥を行いましょう。
- 低温時(3~4月)に定植する場合は、植え溝に速効性肥料(S646)を施すことで、初期生育を促進します。

植え溝一発施肥

- 特徴** 初期生育の安定と追肥を省略することができ、省力化に繋がります。
- 施肥方法** 畦を作ったあとに、植え溝にサンパーなどで施用します。

●基肥の施用例

資材名	投入量	投入成分量(N-P-K)	施肥方法
パワフルねぎ599	(夏どり) 80kg/10a (秋冬どり) 100kg/10a	20 - 7.2 - 7.2 25 - 9 - 9	植え溝一発施肥

溝切り

- 定植前にリッチャーや管理機などで畝立てを行い、畝幅は90~100cm、植え溝は培土機または管理機などで深さ、溝底部の幅ともに20cm程度を確保します。
- 植え溝を定植当日に掘ると、「ひっぱりくん」での定植がしやすくなります。

定植前の苗管理

- 定植の2週間前頃から、育苗ハウス内の温度を徐々に外気に合わせてください。
- 定植時に水分不足だとチェーンポットの剥がれが悪くなります。前日の夕方にはたっぷりがん水し、当日の4~5時間前にも十分にかん水しましょう。

定植

- 「ひっぱりくん」は一定速度で平行に引っ張りましょう。溝の中心の植え付け部分を、足で踏まないように注意してください。
- チェーンポットの根鉢が土で隠れるように植え付けます。紙ポットが土から見えて浅植えとなってしまう場合は、手直してください。

定植時の苗の大きさの目安 ※夏ネギ4月定植の場合

草丈 15cm **葉数** 2~3枚 **太さ** 1.5~2.0mm

※根鉢が十分に形成されており、葉が伸びすぎて植え付けに支障がある場合は、莖葉を15~17cmに剪葉してください。